

6

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 64-083489
 (43)Date of publication of application : 29.03.1989

(51)Int.Cl. B62K 23/06
 B62L 3/02
 B62M 25/04

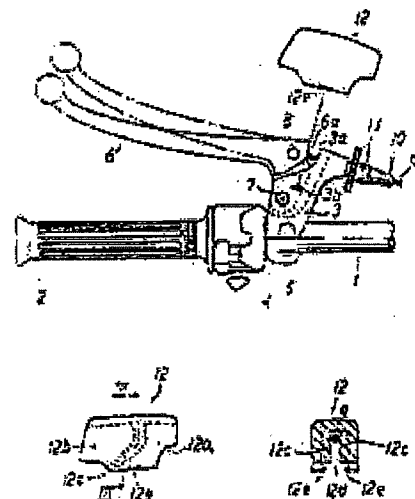
(21)Application number : 62-236180 (71)Applicant : YAMAHA MOTOR CO LTD
 (22)Date of filing : 22.09.1987 (72)Inventor : KAWABE NAOYUKI

(54) HANDLE LEVER ADJUSTING DEVICE FOR MOTOR-BICYCLE

(57)Abstract:

PURPOSE: To easily adjust an interval between a handle lever and a grip by providing an adjusting tool between a lever holder provided on a steering handle and the handle lever to be held between facing surfaces of both.

CONSTITUTION: A grip 2 is provided on one end of a steering handle 1, a lever holder 3 is provided close to the grip 2, and a clutch lever 6 is supported by the lever holder 3. In this constitution, an adjusting tool to adjust a restoration position of the lever 6 is provided between the holder 3 and the lever 6. Step parts 12c are formed between right and left inner surfaces 12a, 12b in the adjusting tool to be respectively brought into contact with the holder 3 and the lever 6, and a slit 12d in which a clutch wire 9 is inserted is formed between the step parts 12c. An interval between the grip 2 and the clutch lever 6 is thus adjusted in accordance with a specified width in a lateral direction in each step part 12c.



⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭64-83489

⑬ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和64年(1989)3月29日

B 62 K 23/06
B 62 L 3/02
B 62 M 25/04

7535-3D
C-6948-3D
D-8609-3D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 自動二輪車のハンドルレバー調節装置

⑯ 特 願 昭62-236180

⑰ 出 願 昭62(1987)9月22日

⑱ 発 明 者 川 邊 直 行 静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機株式会社内

⑲ 出 願 人 ヤマハ発動機株式会社 静岡県磐田市新貝2500番地

⑳ 代 理 人 弁 理 士 山 下 亮 一

明 細 書

1. 発明の名称

自動二輪車のハンドルレバー調節装置

2. 特許請求の範囲

操向ハンドルの端部にグリップを設け、そのグリップの近傍に取付けたレバーホルダーへハンドルレバーを回動自在に取付け、そのハンドルレバーにばねを作用させて不操作方向への復帰傾向を付与した自動二輪車において、前記レバーホルダーとハンドルレバーとの間に、該レバーホルダー及びハンドルレバーの両対向端部間に挟持される調節具を設けたことを特徴とするハンドルレバー調節装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、ハンドルレバーとグリップとの間隔を運転者の手の大きさに合わせて調節できるようにした自動二輪車のハンドルレバー調節装置に関する。

(従来技術):

自動二輪車のハンドルレバーとグリップとの間隔は、該ハンドルレバーを操作する手の大きさに合った間隔に調節することが必要であるが、このような調節が可能な従来ハンドルレバー調節装置としては、例えばレバーホルダーに設けられた調節ボルトにより前記間隔を調節するもの(特開昭57-90277号公報参照)、ハンドルレバーの回動中心位置を変更することができる機構をレバーホルダーに設けて該機構により前記間隔を調節するもの(特開昭56-18432号公報参照)等がある。

(発明が解決しようとする問題点)

しかしながら、上記従来技術のうち前者は自動二輪車の運転中の振動により調節ボルトがゆるみやすいため、調節位置が狂いやすいという問題があり、また後者は調節機構がやや複雑であるという問題があった。

本発明は上記問題に鑑みてなされたもので、その目的とする處は、ハンドルレバーとグリップと

の間隔を運転者の手に合った間隔に確実に維持し、かつ構成が簡単な自動二輪車のハンドルレバー調節装置を提供するにある。

(問題点を解決するための手段)

上記目的を達成すべく本発明は、自動二輪車の操向ハンドルに設けられたレバーホルダーとハンドルレバーとの間に、該レバーホルダー及びハンドルレバーの両対向端面間に扶持される調節具を設けることによりハンドルレバー調節装置を構成したことを特徴とする。

(作用)

而して、レバーホルダーとハンドルレバーとの間に設けられた調節具によりレバーホルダー及びハンドルレバーの両対向端面間に所定の間隔を設定した状態でハンドルレバーが不操作位置に保持され、該所定の間隔によってハンドルレバーとグリップとの間隔が決定される。

(実施例)

以下に本発明の実施例を添付図面に基づいて説明する。

他方の端子にはばね(共に図示省略)が係合しており、該ばねはクラッチワイヤ9及びクラッチレバー6に常時不操作方向への復帰傾向を付与している。

このような構成において、本発明に係るハンドルレバー調節装置が以下のようにして設けられている。

即ち、前記レバーホルダー3とクラッチレバー6との間には、クラッチレバー6の復帰位置を調節する調節具12が設けられている。第2図及び第3図はいずれもこの調節具12を示す図であり、第2図は調節具12の側面図、第3図は第2図のⅡ-Ⅱ線断面図である。

而して、調節具12は端面が逆U字状をなす略直方体の樹脂製部材であり、その第2図中右方の内面12aは前記レバーホルダー3の側面の所定箇所に嵌着する如く形成されており、一方、その第2図中左方の内面12bはクラッチレバー6の一端部に嵌着する如く形成されている。また、調節具12の両内側面の第2図中左右方向中央部(

先ず、第1図に基づいて本発明に係るハンドルレバー調節装置が設けられた自動二輪車のハンドルレバー及びレバーホルダーとその周辺部の構成を説明する。第1図中、1は操向ハンドルで、その一端にはゴム質のグリップ2が嵌着されている。操向ハンドル1のグリップ2近傍にはレバーホルダー3が取付けられている。即ち、該レバーホルダー3はキャップ4との間で前記操向ハンドル1を挟持しており、これらレバーホルダー3及びキャップ4はボルト5にて結合されている。

また、前記レバーホルダー3にはハンドルレバーであるクラッチレバー6が支持されている。即ち、該クラッチレバー6は周知のようにレバーホルダー3にピボットボルト7を介して回動自在に取付けられている。更に、クラッチレバー6の所定箇所にはクラッチワイヤ9の一方の端子8が係止されている。そして、該クラッチワイヤ9はアウトワイヤ10に挿通されており、該アウトワイヤ10の端部は支持ボルト11にてレバーホルダー3に支持されている。また、クラッチワイヤ9の

前記内面12a及び12bの間)には、クラッチレバー6及びレバーホルダー3の両対向端面6a、3aに両端面がそれぞれ密接に当接する段部12c、12cが形成されている。即ち、該段部12c、12cは前記両対向端面6a、3a間の扶持されるべく、第2図中左右方向の所定幅を持たせて形成されている。そして、これらの間には前記クラッチワイヤ9が挿通するスリット12dが形成されている(第3図参照)。更に、前記内面12aを形成する両内側面の下端部には、レバーホルダー3の両側面の所定箇所に形成された溝部3b、3bにそれぞれ係合する爪部12e、12eが突設されている。

このようにして構成された調節具12は、レバーホルダー3の所定箇所に一体的に嵌着され、爪部12e、12eが溝部3b、3bにそれぞれ係合されて固定される。また、調節具12の段部12c、12cの一端面はレバーホルダー3の端面3aに当接し、段部12c、12cの間のスリット12dにはクラッチワイヤ9が挿通する。

以上において、クラッチレバー6は不操作時にはその端面6aが調節具12の段部12c、12cの他端面に密接に当接する位置(第1図中実線位置)に保持される。これに対し、調節具12を取けないときは、クラッチレバー6の不操作時の位置はクラッチレバー6の端面6aとレバーホルダー3の端面3aとが直接に当接する位置(第1図中二点鎖線位置)となる。従って、クラッチレバー6とグリップ2との間隔が調節具12を取付けることにより狭められる。即ち、調節具12の段部12c、12cの第2図中左右方向の所定幅によってクラッチレバー6とグリップ2との間隔が決定され、この所定幅が大きい調節具を取付けるほど、クラッチレバー6とグリップ2との間隔を狭くできる。このようにして、クラッチレバー6とグリップ2との間隔をクラッチレバー6を操作する手の大きさに合わせた間隔とすることができ、操作レバーの操作性を向上させることができ、特に比較的大型の自動二輪車を婦人等が操作する場合にも操作レバーの操作を容易に行え

発明を適用した場合について述べたが、本発明はこれに限らず、ブレーキレバーの調節装置にも適用できることは言うまでもない。

(発明の効果)

以上の説明で明らかな如く本発明によれば、自動二輪車の操向ハンドルに設けられたレバーホルダーとハンドルレバーとの間に、該レバーホルダー及びハンドルレバーの両対向端面間に挟持される調節具を設けることによりハンドルレバー調節装置を構成したため、ハンドルレバーとグリップとの間隔を該ハンドルレバーを操作する手の大きさに合った間隔に調節できると共に、自動二輪車の運転中の振動等によりこの間隔が変わることを防止でき、しかも、装置の構成を簡略化することができるという効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係るハンドルレバー調節装置の構成図、第2図は調節具の側面図、第3図は第2図のⅢ-Ⅲ線断面図、第4図は本発明の変更実施例を示すハンドルレバー調節装置の構成図であ

るようにすることができる。また、前記調節具12の段部12c、12cの所定幅は容易には変わることがないから、クラッチレバー6とグリップ2との間隔は自動二輪車の運転中の振動等の影響を受けず、適切な間隔に確実に維持される。更に、上述したクラッチレバー6の調節は樹形製の調節具12のみによって行われるから、従来のレバー調節装置と比較してクラッチレバー6及びレバーホルダー3の周辺部の構成が簡易化される。

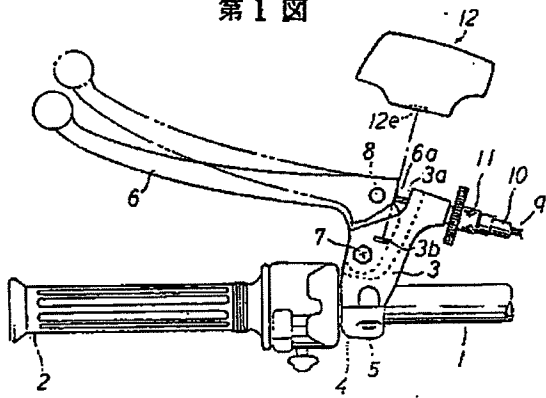
尚、上記実施例においては、調節具12に爪部12e、12eを設け、これらをレバーホルダー3の溝部3e、3eに係合させて該調節具12を固定するようにしたが、これに限らず、第4図に示すように調節具12'の側壁の所定箇所に螺子孔を穿設した支持部を設け、これらにピボットボルト7を挿通して該調節具12'をクラッチレバー6と共に該ピボットボルト7にてレバーホルダー3に取付けるようにしてもよい。また、上記実施例においては、クラッチレバーの調節装置に本

る。

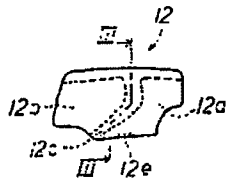
1…操向ハンドル、2…グリップ、3…レバーホルダー、3b…溝部、6…クラッチレバー(ハンドルレバー)、7…ピボットボルト、9…クラッチワイヤー、12、12'…調節具、12c…段部、12e…爪部。

特許出願人 ヤマハ発動機株式会社
代理人 弁理士 山下 亮一

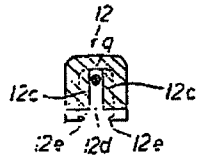
第1図



第2図



第3図



第4図

